

アンケート調査結果

アンケート調査は、別添のアンケート調査票を用い、あらかじめ保健所長会の承認を受けた上で、保健所長会メーリングリストを活用して行った。調査期間は、平成21年1月29日～平成21年2月22日とした。

各保健所長様

地域における医科歯科連携に関するアンケートへのご協力をお願い

平成20年度地域保健総合推進事業（全国保健所長会協力事業）

「歯科・医科連携による歯周疾患アプローチに関する研究」

分担事業者 滋賀県高島保健所長 瀬戸 昌子

全身疾患と口腔疾患との関連性、特に糖尿病と歯周病の関連性についてのエビデンスが蓄積されています。糖尿病は歯周疾患の増悪因子となり、歯周病は糖尿病の第6の合併症と言われます。一方、重度の歯周病に罹患していると、歯周病炎症創から侵入する歯周病原性菌に対する生体反応の結果、生体から産生されるTNF- α をはじめとする生理活性物質によってインシュリン抵抗性が増し、血糖コントロールは悪化します。さらに歯周病により歯の喪失や動揺が起こると糖尿病を悪化させるような食生活に陥りやすいという悪循環となります。逆に、糖尿病と歯周病治療がうまく進めば、両方の疾患に好影響がもたらされます。

このようなエビデンスに基づくと、これまで注目されてきたとは言い難い「医科と歯科の連携」が、地域保健医療に大きな成果をもたらす新たな可能性が出てきております。本事業では、その可能性を追求したいと考え、地域における歯周病検診、特定検診・特定保健指導における歯科との連携、糖尿病と歯周病治療の連携体制を組み入れた地域連携クリティカルパス、糖尿病性腎症Ⅰ期患者への適切な歯周治療による糖尿病性腎症発症防止、脳卒中患者の在宅療養時の医科歯科連携体制等、様々な視点から検討を行っておりますが、保健所として地域保健医療に貢献できる大きなジャンルであると認識しつつあります。

今回、各所長様の医科歯科連携に関するお考えや圏域の実情をお尋ねしたいと考え、アンケートを実施することにいたしました。ご多忙のところ大変お手数をおかけしますが、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。尚、お答えいただいた内容は統計的に処理をしますので、公表時に、回答された保健所が特定されることはございません。データを本調査以外の目的に使用することもございませんのでご了承くださいたく存じます。

ご回答につきましては、ご多忙の折、誠に恐縮ですが 平成21年2月20日（金）までに、FAXもしくはE-mailにてお願いいたします。

問い合わせ 及び 回答先

滋賀県草津保健所 井下 英二

電話 077-562-3526 FAX 077-562-3533

E-mail : inoshita-eiji@pref.shiga.lg.jp

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした 医科と歯科の連携推進のためのアンケート調査票

地域保健総合推進事業「歯科・医科連携による歯周疾患アプローチに関する研究」

分担事業者：瀬戸昌子（滋賀県高島保健所）

ご回答（ ）府・県・市（ ）保健所

◎以下の質問で、あてはまる番号を○で囲んでください。

糖尿病と歯周病について

①近年、糖尿病では歯周病のリスクが高まるとされていますが、このことについて

1. よく知っている 2. いくらか知っている 3. 知らなかった

②歯周病があると、糖尿病の血糖コントロールに悪影響を与えるとの知見が得られてきていますがこのことについて

1. よく知っている 2. いくらか知っている 3. 知らなかった

③糖尿病患者の歯周病の治療を行うことで血糖管理がしやすくなると報告が増えていますが、このことについて

1. よく知っている 2. いくらか知っている 3. 知らなかった

糖尿病の地域連携クリティカルパスについて

④貴圏域での糖尿病の地域連携クリティカルパスの現況を教えてください。

1. 運用されている 2. 準備中である 3. 準備に着手していない

☆1. 2. の回答の場合

貴圏域における糖尿病の地域連携クリティカルパスには、「歯科」は組み込まれていますか？

1. はい 2. いいえ 3. 歯科と連携できるよう準備中である

⑤糖尿病と歯周病の相互の関係をふまえて、今後、貴圏域糖尿病地域連携クリティカルパスの連携先として「歯科」を加えることを考慮したいですか？

1. 考慮したい 2. 歯科医師会が積極的なら考慮する 3. 考慮しない
4. すでに歯科と連携している

口腔ケアと高齢者健康管理について

⑥口腔清掃の不良が、寝たきり高齢者における誤嚥性肺炎のリスク因子であるとの知見が近年得られていますが、このことについて

1. よく知っている 2. いくらか知っている 3. 知らなかった

⑦口腔ケアによって、寝たきり高齢者における誤嚥性肺炎の発症が低下するとの知見が得られていますが、このことについて

1. よく知っている 2. いくらか知っている 3. 知らなかった

⑧口腔清掃によって、高齢者のインフルエンザ感染率が有意に低下するとの知見が得られていますが、このことについて

1. よく知っている 2. いくらか知っている 3. 知らなかった

脳卒中地域連携クリティカルパスについて

⑨貴圏域での脳卒中の地域連携クリティカルパスの現状はいかがですか？

1. 運用されている 2. 準備中である 3. 準備に着手していない

☆1. 2. の回答の場合

貴圏域における脳卒中の地域連携クリティカルパスには、「歯科」は組み込まれていますか？

1. はい 2. いいえ 3. 歯科と連携できるよう交渉中である

⑩寝たきり高齢者の健康管理における口腔ケアの重要性をふまえて、今後、貴圏域の脳卒中地域連携クリティカルパスの連携先として「歯科」を加えることを考慮したいですか？

1. 考慮したい 2. 歯科医師会が積極的なら考慮する 3. 考慮しない
4. すでに歯科と連携している

その他、医科と歯科との連携について自由に記載していただければ幸いです。

①これまで医科と歯科との連携で経験した事例

②これから医科と歯科との連携を進めたい課題

③これから医科と歯科との連携を進めるための手だてについて

～ご協力ありがとうございました～

恐れいりますが、ご回答は本年2月20日(金)までに
下記 FAX か E-mail あてにお願いいたします。

FAX: 077-562-3533

E-mail: inoshita-eiji@pref.shiga.lg.jp

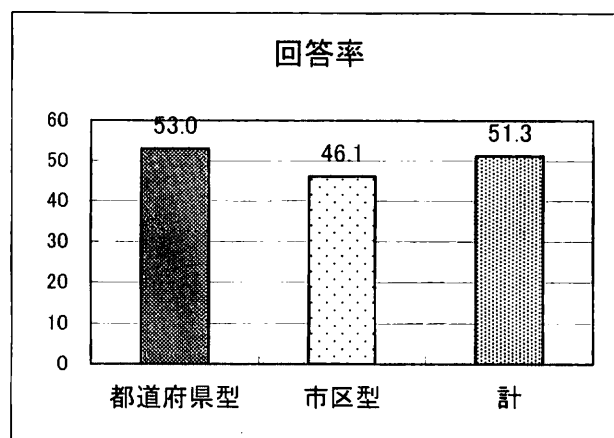
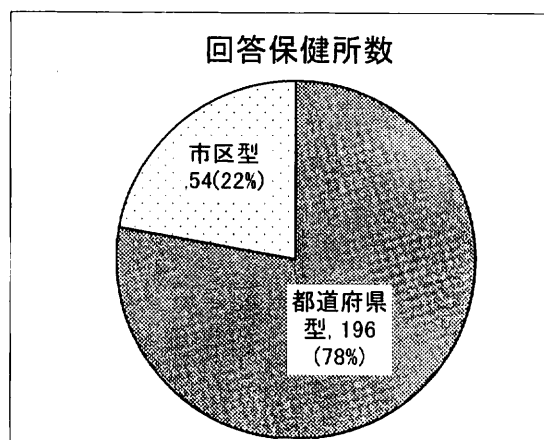
滋賀県草津保健所 井下英二

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした 医科と歯科の連携推進のためのアンケート集計結果

○保健所型別回答状況

	実数	%	所長数	回答率
1 都道府県型	206	77.7	389	53.0
2 市区型	59	22.3	128	46.1
計	265	100.0	517	51.3

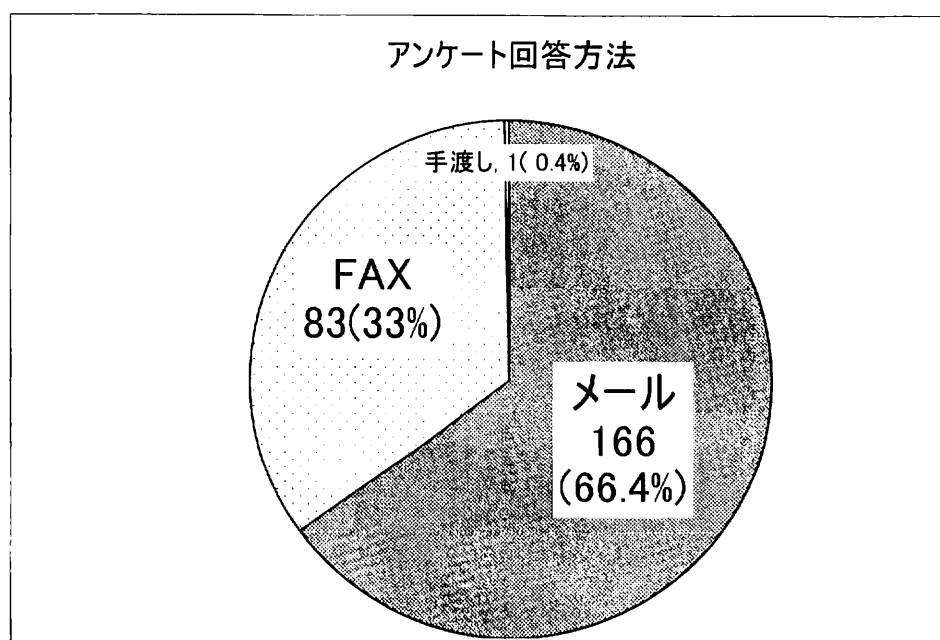
- ・回答した保健所は、263保健所で、回答率は、51.3%
- ・回答率は、都道府県型53%、市区型46.1%



○アンケート回答方法

	実数	%
1 インターネット	172	64.9
2 FAX	92	34.7
3 手渡し	1	0.4
計	265	100.0

- ・回答方法は、64.9%がインターネット、34.7%がFAX



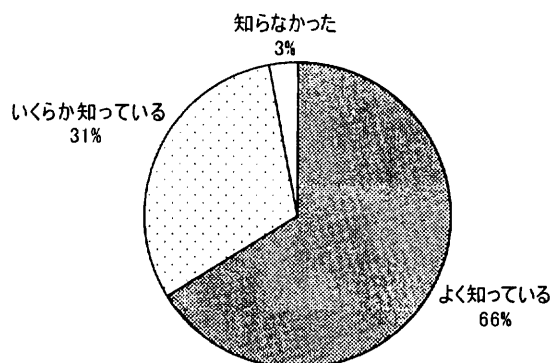
○糖尿病と歯周病について

1 近年、糖尿病では歯周病のリスクが高まるとされていますが、このことについて

・糖尿病が歯周病のリスク因子であることは、ほぼ全ての保健所が認識している

	実数	%
1 よく知っている	175	66.0
2 いくらか知っている	82	30.9
3 知らなかった	8	3.0
計	265	100.0

糖尿病は歯周病のリスクを高めることについて

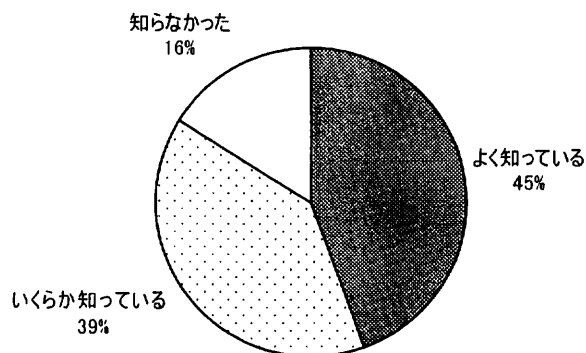


2 歯周病があると、糖尿病の血糖コントロールに悪影響を与えるとの知見が得られてきていますが、このことについて

・歯周病と血糖コントロールの関連性は、8割以上の保健所が認識している

	実数	%
1 よく知っている	118	44.5
2 いくらか知っている	104	39.2
3 知らなかった	43	16.2
計	265	100.0

歯周病と血糖コントロールの関連性について

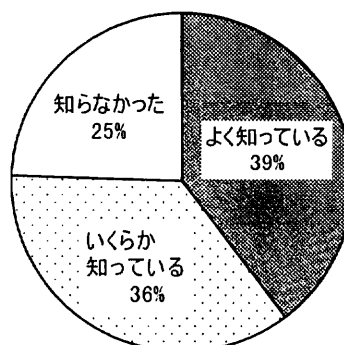


3 糖尿病患者の歯周病の治療を行うことで血糖管理がしやすくなるとの報告が増えています、このことについて

・歯周病の治療と血糖コントロールの関連性は、7割以上の保健所が認識している

	実数	%
1 よく知っている	105	39.6
2 いくらか知っている	95	35.8
3 知らなかった	65	24.5
計	265	100.0

歯周病治療と血糖コントロールの関連性について



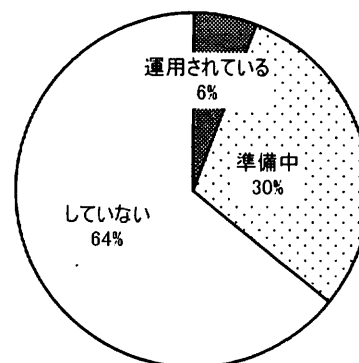
○糖尿病の地域連携クリティカルパスについて

4 貴圏域での、糖尿病の地域連携クリティカルパスの現況を教えてください。

・糖尿病の地域連携パスが運用されているのは6%、準備中が30.2%

	実数	%
1 運用されている	15	5.9
2 準備中	76	29.9
3 していない	163	64.2
計	254	100.0

糖尿病の地域連携パスの運用状況



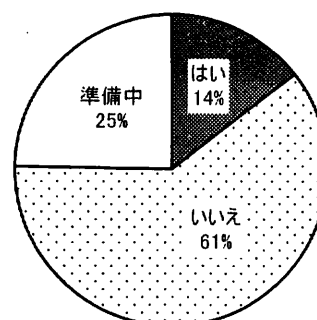
☆1. 2. の回答の場合

貴圏域における糖尿病の地域連携クリティカルパスには「歯科」は組み込まれていますか？

・糖尿病の地域連携パスに「歯科」が組み込まれているのは14.4%
準備中が24.7%

	実数	%
1 はい	14	14.4
2 いいえ	59	60.8
3 準備中	24	24.7
計	97	100.0

糖尿病の地域連携パスでの「歯科」の組み込み状況

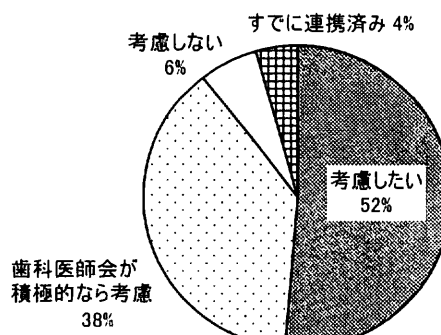


5 糖尿病と歯周病の相互の関係をふまえて、今後、貴圏域糖尿病地域連携クリティカルパスの連携先として「歯科」を加えることを考慮したいですか？

・糖尿病の地域連携パスの連携先として「歯科」を考慮したいは約半数、歯科医師会が積極的なら考慮するのは38.3%、すでに連携済みなのが4.3%

	実数	%
1 考慮したい	118	51.3
2 歯科医師会が積極的なら考慮	88	38.3
3 考慮しない	14	6.1
4 すでに連携済み	10	4.3
計	230	100.0

今後の糖尿病の地域連携パスへの「歯科」組み込みの考慮について



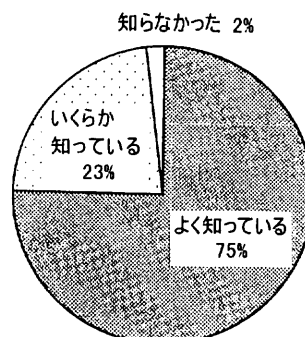
○口腔ケアと高齢者健康管理について

- 6 口腔清掃の不良が、寝たきり高齢者における誤嚥性肺炎のリスク因子であるとの知見が近年得られていますが、このことについて

・口腔清掃不良と誤嚥性肺炎の関連性については、ほとんどの保健所が認識している

	実数	%
1 よく知っている	199	75.4
2 いくらか知っている	60	22.7
3 知らなかった	5	1.9
計	264	100.0

口腔清掃不良と寝たきり高齢者の誤嚥性肺炎の関連性

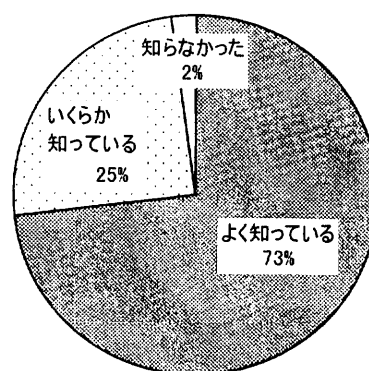


- 7 口腔ケアによって、寝たきり高齢者における誤嚥性肺炎の発症が低下するとの知見が得られていますが、このことについて

・口腔ケアによって寝たきり高齢者の誤嚥性肺炎の発症率が低下することはほとんどの保健所で認識されている

	実数	%
1 よく知っている	193	73.1
2 いくらか知っている	65	24.6
3 知らなかった	6	2.3
計	264	100.0

口腔ケアと誤嚥性肺炎発症の関連性

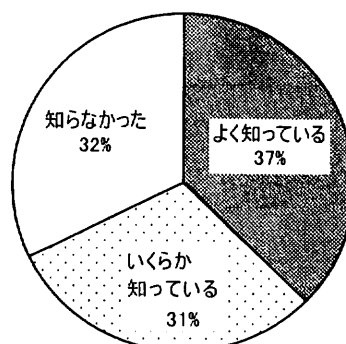


- 8 口腔清掃による高齢者のインフルエンザ感染率が低下する知見について

・口腔清掃と高齢者のインフルエンザの関連性については、7割の保健所が認識している

	実数	%
1 よく知っている	98	37.1
2 いくらか知っている	81	30.7
3 知らなかった	85	32.2
計	264	100.0

口腔清掃とインフルエンザの関連性



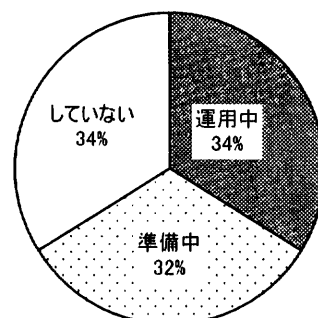
○脳卒中地域連携クリティカルパスについて

9 貴圏域では、脳卒中の地域連携クリティカルパスの現状はいかがですか？

・脳卒中の地域連携クリティカルパスは1／3の地域で運用中、1／3の地域で準備中

	実数	%
1 運用中	87	33.9
2 準備中	83	32.3
3 していない	87	33.9
計	257	100.0

脳卒中地域連携クリティカルパスの運用状況



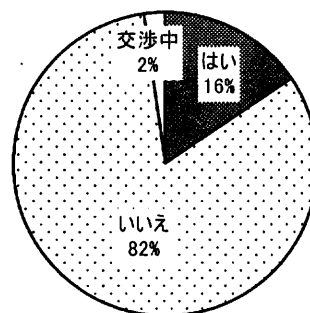
☆1. 2. の回答の場合

貴圏域における脳卒中の地域連携クリティカルパスには、「歯科」は組み込まれていますか？

・脳卒中の地域連携クリティカルパスに「歯科」が組み込まれているのは15. 6%

	実数	%
1 はい	27	15.6
2 いいえ	142	82.1
3 交渉中	4	2.3
計	173	100.0

脳卒中地域連携クリティカルパスへの「歯科」の組み込み状況

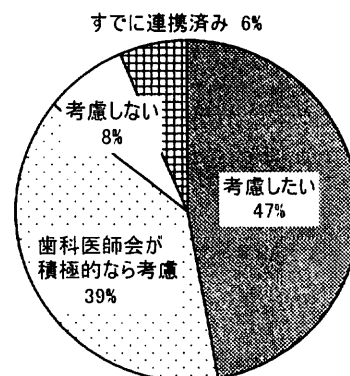


10 寝たきり高齢者の健康管理における口腔ケアの重要性をふまえて、今後、貴圏域の脳卒中地域連携クリティカルパスの連携先として「歯科」を加えることを考慮したいですか？

・脳卒中地域連携クリティカルパスの連携先として「歯科」を組み込むことを考慮するが47. 2%、歯科医師会が積極的なら考慮するが38. 6%、すでに連携済みが6. 4%

	実数	%
1 考慮したい	110	47.2
2 歯科医師会が積極的なら考慮	90	38.6
3 考慮しない	18	7.7
4 すでに連携済み	15	6.4
計	233	100.0

今後の脳卒中連携パスへの「歯科」の組み込みの考慮について



地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科との連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答者	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手立て
2	都道府県	地域では、口腔ケアに対する検討会が、医療機関と歯科ですで行われている		
7	都道府県	ビスフォスフォネート系薬剤による顎骨壊死・骨髄炎のについて医師会、歯科医師会と連携講演会開催	新型インフルエンザ発生時の歯科医師会の協力期待	
8	都道府県	糖尿病予防対策における地域連携事業	連携の必要性は理解するが具体的な方法の共通認識に時間がかかる	
9	都道府県	県歯科医師会が「糖尿病と歯周病の相関関係」「歯周病は糖尿病の合併症です」ポスターを医師会協賛で作成、配付。特定健診案内に歯周病セルフチェック票を入れるよう健保連に依頼し、医師会には病診連携として糖尿病の診療情報提供書の活用を依頼した		
10	都道府県		学齢期思春期う蝕予防	保健所長が歯科に関心を持つこと
12	都道府県	糖尿病と歯周病に関してのみ実施している		
23	都道府県	健康プラン、たばこ対策	摂食嚥下障害、認知症	連携推進会議の設置
24	都道府県	前任保健所時代に健康診査で耐糖能異常とされた者に、歯周病検査を勧めるシステムをモデル的に導入した	まずは糖尿病対策と考えている	
25	都道府県		糖尿病についての連携と呼吸器疾患予防について進めたい	地域保健医療推進会議の活用を検討している。
26	都道府県		メタボ対策でもさらに積極的な連携が必要と考える。	診療報酬上でのメリットを要望していく必要がある。特に歯科では経営が困難となりつつあるところもあるため、対応を検討する必要がある。
30	都道府県		口腔ケアと脳卒中、肺炎等については、研修会等にて協力しており、今後具体的な連携に進めていきたいと考えている。	
31	都道府県		禁煙支援における連携	顔と顔がみえる関係づくりのための機会づくり、連携会議づくりなど、所長の根回し、資料の提供
32	都道府県		歯科医師会が糖尿病を含めたメタボリックシンドロームとの関係の研修及び医科との連携方針を示しておられるので検討したい。	保健所で定期的に医療機関(現在は医科のみ)との連絡会を開催しており、議題によっては歯科医師会の代表にも参加していただき、具体的な連携内容の検討を行いたい。

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科との連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答順	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
33	都道府県			現在、働き盛りの人々への歯科保健対策として地域と連携した取り組みを考え少しずつ動いております。 生活習慣病、特に糖尿病との関係等を衛生教育の中に入れ歯科保健の大切さを周知し、医科と歯科のれんけいが必要なることをご理解いただけるよう取り組みたいと考えます。
38	都道府県		保健所の関係職員研修、看護学生実習、及び住民への出前講座などで、保健所歯科医師、歯科衛生士、又は歯科医師会等の講師により歯周病予防講座を開催する。	地元の医師会研修において、歯科医師会と合同で、歯周病と糖尿病などのテーマで講演を開催する。
42	都道府県	保健所主催で開催した摂食嚥下研修会で医師と歯科さらにST、栄養士等の職種との連携が必要であることを認識した	口腔ケアが全身に及ぼす影響について医科との連携の中で情報を共有し広く普及していく必要がある。	地域において医師と歯科医師がつどって意見交換する場が必要か？
45	都道府県	認知症患者の誤嚥性肺炎予防で連携	糖尿病連携パスが動き始めたら、歯科との連携を進めたい。	
48	都道府県		急性期～回復期～維持期における口腔ケア	
50	都道府県		特定健診特定保健指導での歯周疾患の付加	国への呼びかけ、歯科医師会との連携、合意の取り付け、できるだけ多くの成功例の共有。
52	都道府県		管内の関係機関と連携して、在宅医療推進の事業を進めている。 関係者連絡会議には歯科医師会からも出席いただくことになっており、連携を深めたいと考えている。	
59	都道府県	大学産婦人科教室と市町、県、歯科医師会で早産予防事業に取り組んだ(平成20年度)。 早産予防のため絨毛膜羊膜炎対策事業、妊婦の歯周病健診、生活指導を実施、極低出生体重児の出生数を減らす。 歯周病があることで早産の危険率は2.83倍高まるという	生活習慣病対策、災害など健康危機対策、周産期医療、高齢者保健福祉対策、障害児医療、児童虐待防止対策、学校保健	行政が主催する健康づくりの協議会やモデル事業、学校保健活動などを通じての連携。今年度から開始された特定健診、保健指導など生活習慣病対策から歯科検診・歯周病健診が等閑視されている

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答順	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手立て
62	都道府県	特になし(歯科医の歯周疾患の講演の中に、医科の糖尿病や心臓病、肺炎の話題が出ており、歯科医の中に少しづつ広まってきたと思うが、医師にはまだ不十分といえる)	高齢者の口腔ケア(脳卒中中の地域連携の中に、将来は取り入れたい)	具体的な高齢者の口腔ケアの事例で、連携の必要性を医師に実感してもらうことが大切で、それに向けた取組を地道に進めることだと思う。行政側に歯科医師がいると連携がとりやすくなると思われるが、当県では無理である。
66	都道府県		ワーファリン服用患者の歯科治療	研修勉強会
67	都道府県	禁煙支援、難病ケア	高齢者、障害者、難病ケア	顔の見える関係づくり
68	都道府県		高齢者の地域ケアにおける連携、糖尿病クリアルカルパスへの歯科の組み入れ	保健所で毎年行っている歯科調整会議(歯科医師会、医師会が参加)での話題に取り上げる。地域医師会の場で、医科歯科連携の有用性についての発表を行う。
69	都道府県		介護保険の認定審査会には医師も歯科医師も委員になっている。 介護保険のような高齢者領域や、さらに拡げて障害者ケアの部分で連携するのは違和感がないのではないか。	管内のある自治体の「健康まつり」には医師会、歯科医師会ともにブースをもって活動している。このような場で関連する疾病や対策のブースを共通でやれたらよいかもしれない。
70	都道府県	＜歯周病と糖尿病を関連させた事業の取り組み経過＞ ・平成16年度から医科・歯科診療連携を進める目的でシンポジウム、フォーラム、推進会議を開催医科から「糖尿病健康手帳」の有効活用が提案され、平成19年度から手帳を介した医科歯科双方からの情報提供を図っている ・平成20年度からは連携を効果的に推進するため、診療所・病院向けと歯科診療所向けの2種類のポスターを作製、配布し院内掲示を依頼した。 また、薬局掲示用のポスターも作製、配布し、薬剤師会も巻き込みながら医科・歯科診療連携を進めている	・糖尿病の発症予防、重症化予防のための教育、情報提供及び適切な歯科医療提供ができる体制づくり	・口腔疾患と全身疾患との係わりについての情報提供(医療従事者、関係者対象の研修会開催、関係機関・団体との連携会議開催) ・糖尿病健康手帳を利用した医科歯科双方から提供の情報
78	都道府県		在宅医療を推進する地域医師会から歯科との連携の声が上がってきている。	管内での在宅医療等における保健医療福祉関係者の連携のとりくみについて、今年度は歯科医師会にも案内し、地域での活動の現状についてまず啓発していく。
79	都道府県	認知症、脳卒中を対象とした医療連携システム構築で連携可能な歯科診療所リストの作成、脳卒中、糖尿病等医療連携検討会委員として歯科医師会代表の参加、医師、歯科医師協同での高齢者摂食嚥下リハの実施事例	特定健診・特定保健指導等高齢者保健対策での連携(例)特定健診での糖尿病・高血圧症等の要指導、要医療群への歯科受診勧奨、介護予防事業での連携母子保健における食育を通じた連携	住民向け全身と口腔保健に関する情報の周知、口腔に関する研修開催および医師会・歯科医師会会員等への積極的な参加要請、医師・歯科医師双方の医療連携に関する検討の場の設置

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答欄	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
81	都道府県	・地域・職域保健連携事業において健康管理及び生活習慣病対策にかかる医科と歯科領域の連携を深めることが、地域住民の健康水準の向上につながることを共通理解となっていること ・地域医療連携体制において県医療計画の4疾病の中で歯科が直接携わる領域として、がん、脳卒中、心筋梗塞の医療体制に歯科を明記したこと、地域において歯科の医療機能としての連携を検討していること(糖尿病に歯科の連携を記載していなかったこと)	・上記①の事業展開において具体的な連携方策を展開すること ・県健康増進計画「健康いわて21プラン」の推進において、この地域では特に重点的に取り組む3つの領域として「栄養」「喫煙」「口腔保健」の活動を展開しているが、次年度は、さらに関係機関・団体の取組みを推進したいが、口腔保健については喫煙や生活習慣等々の危険因子(要因)の改善の視点だけでなく、医科と歯科とのさらなる連携が不可欠であること ・健康づくりにおける県の重要施策であるメタボリックシンドローム1割削減を進めるためにも、生活習慣病対策における口腔保健の立ち位置を連携の観点から体系化すること	地域の健康課題として共通の理解はできたが、個々の領域の普及啓発、予防、ハイスクアプローチに留まらず、それぞれが相関することによって、さらに成果(数年後の指標改善)があることを実感できるような効果的な手法が求められていること。
82	都道府県			クリティカルパスは急性期病院から伸展しつつあるところ。医科と歯科の連携についてはまだ一般的には十分認識が進んでいない。 まずは医科と歯科の連携の必要性についての啓発を行い、ある程度の認識が得られたらクリティカルパスへの組み込みが可能になるのではないかと。
90	都道府県	在宅難病患者(特にALSなどの神経難病)の口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防	高齢者、障害児(者)、難病患者のQOL向上のための医科歯科連携	地区医師会と地区歯科医師会の共通認識を進めるための圏域保健医療協議会や難病ネットワーク会議の活用(医師会、歯科医師会の会員を対象とした講習会や研修会の開催など)
91	都道府県	・糖尿病治療に関わる病院、診療所での患者指導の際、歯周病予防に関する指導、情報提供がされるよう、リーフレット(愛知県作成)を配布し、活用を進めている。 ・市町が実施する特定健診・保健指導において、歯周病予防に関する保健指導、情報提供が取り入れられるよう働きかけ、管内1市5町のうち4町で取り組まれている。	・糖尿病患者(予備群含)は、ますます増加している。 ・糖尿病も歯周病も初期からの対応が必要であり、糖尿病と歯周病治療の早期での、医科・歯科連携を進めることが課題である。	・現在実施している歯周病対策ネットワーク推進事業(推進会議、普及講演会、普及啓発等)を通じ、地域関係機関(三師会、病院、市町等)とさらに連携を進めていく。
92	都道府県		生活習慣病時に糖尿病と歯周疾患の関係について	糖尿病対策検討会等での歯周病についての研修会の開催

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科との連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答順	保健所名	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
94	都道府県	当所で開催している保健医療福祉推進会議に医師会及び歯科医師会から代表が委員として参加し、地域連携の取り組みを一緒に協議している。 歯科医師会委員から訪問歯科診療の実態の報告を行う。	多職種が協働した在宅ケアの取り組みとして合同カンファレンス等の開催を検討する。	保健医療福祉会議を開催し、具体的な地域連携の取り組みを連携して行う。
95	都道府県	保健所ではないが産科と歯科の連携でハッピーベビー事業を実施(県庁で)		
96	都道府県		検討中	検討中
99	都道府県	○ 特定健診・特定保健指導における連携(平成19年度～) ○ 糖尿病対策における連携 ○ 医師会・歯科医師会・行政連絡協議会の開催 ○ メタボリックシンドローム対策における連携	摂食嚥下リハビリテーション	医師会、歯科医師会及び保健所が、定例的に協議・意見交換する場面を持ち、「顔の見える関係」をつくる必要があると考える。 その上で、個別のテーマについて、具体的に、検討し・連携することが可能となると考える。
100	都道府県		高齢者、在宅療養者のケアに関して、関係者相互の情報交換等れんけいが必要であり、その中に歯科も含めたい	
102	都道府県		当県では、医療計画を進めるために、地域ごとに推進方針を作成しています。 当圏域の脳卒中中部会の対策会議で「脳卒中患者の急性期・回復期の医療機関における口腔ケア・摂食嚥下障害・義歯作成の取り組み状況を知りたい」という意見が出されたことから、関係機関へアンケートを行い、現在集計中です。 今後アンケート結果を参考に医療と歯科の連携を進めていきたいと考えています。	クリティカルパスの中に、口腔ケアを組み込み、連携を深めていきたい。
103	都道府県	糖尿病治療において医科と歯科が連携している		
105	都道府県	口腔ケアと高齢者の誤嚥性肺炎での勉強会を実施	糖尿病パスについて是非とも医科歯科連携を強化したい	1. 歯科医師会の協力、2. 保健所の役割が重要
114	都道府県	摂食嚥下地域連携パスを作成し、現在試行をしているところである。	平成21年度より糖尿病地域連携協議会を立ち上げ、パスを検討していく。	事例検討会や研修会等を通じて、共通認識を図るようにする。
115	都道府県	管内市域で国の認知症関連の事業を実施した際、医療・介護連携として、連携のあり方やツールなどを一緒に協議した。	介護保険や在宅療養(難病他疾患)での連携	地域連携クリティカルパスの検討を行うための会議を立ち上げたが、その会議のメンバーに歯科医師会代表を入れている。

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科との連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答順	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
117	都道府県	当県では、歯周病対策ネットワーク推進事業として歯周病対策を各保健所で進めています。昨年度からは、歯科から発信する糖尿病と歯周病に関する医科歯科の診診連携を進めています。 当保健所では、医師会、歯科医師会、市町村と連携し、歯周病は糖尿病の合併症であることを、県が作成した媒体等を使用して周知するとともに、啓発用ポスターを作製し、糖尿病健康手帳等を活用して患者が医科歯科双方に受診されるよう啓発に取り組んでいます。 また、要介護者口腔ケアサービス連携推進事業として、関係機関と連携をとり、口腔ケアの重要性について普及啓発、システム作り等に取り組んでいます。	連携を進めるにあたっては、歯科の方の受け皿として、かかりつけ歯科医が必ずしも歯周病を専門としているかは不明であり、難しい点です。特に当管内では高齢者が多く、また、糖尿病患者も多く存在することから、連携が必要だと思われま。	
120	都道府県	在宅医療でも連携、高齢者施設での連携（口腔ケア）	在宅医療での連携、高齢者施設での連携	歯科医師会からの働きかけ、歯科医師個人の努力、医、行政の理解
125	都道府県		嚥下障害や口腔内に問題のある患者について、入院時から歯科医師や歯科衛生士等と具体的な対応を検討していきたい。	・糖尿病手帳に歯科の項目を必ず入れ込むようにする。 ・糖尿病患者に医療機関が歯科検診や歯科治療のための受診を進め、受診結果を確認するよう、歯科医師会と医師会が協議する。 ・入院中に医療機関で実施するカンファレンスに、歯科関係者も出席するようしくみにする。
126	都道府県	臨床時代にがん放射線療法中の食思不振が義歯の不具合だったことがある。歯科治療により、その後の治療がスムーズにいった。	在宅医療を受けている方への訪問歯科治療	圏域で地域医療の検討する会議があるので連携推進は図れると思う。
131	都道府県	糖尿病患者の歯科治療に際し、歯科から医科に診療情報提供書が送られても、歯科側が何を情報として欲しいのか明確でないこと、又、歯科の情報（歯の番号や計測値）を貰っても、医科側に歯科に関する知識が無いので、役に立てようが無いとの声が、医科側から聞かれた。	上記①のような場合で、具体的に必要な情報を項目化するなど、医科歯科相方の共通認識作りが必要である。	保健所で行なう歯科保健関連会議、医療圏会議において、上記について検討する。 糖尿病や脳卒中の地域連携クリティカルパスに、医科歯科の両方に診療報酬が当てられるなどの環境整備が必要である。

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答欄	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
134	都道府県	・管内医師会と歯科医師会が連携して「口から食べたい」講演会を継続して実施している。(今年度で12年目、12回の開催実績) ※脳卒中などで脳に生涯を負って口から食べるものが難しくなった人へ口から食べるための介助やリハビリにどう取り組んで行けばいいのかが実践するためのセミナー ・管内市では両会が中心となり各団体を含め年1回「健康フェスティバル」を開催している。		
135	都道府県	・実績としては殆んどない。現在進めているがん患者の在宅療養の地域モデル検討において、医師会、看護協会、薬剤師会などと共に歯科医師会にも参加して頂いている。	・糖尿病地域連携パス ・脳卒中地域連携パス ・在宅医療の一部としての在宅歯科医療のシームレスな連携	・歯科医師会のキーパーソンを各種協議会委員に招いて、合議事項を確実にフィードバックして頂く。 ・県内どこでも在宅歯科医療が可能な状態を作っていく。 ・病院から在宅医療に移行する患者に、在宅歯科医療の可能な歯科医師を紹介する制度をつくる。
139	都道府県	摂食嚥下障害対策事業において、医師、歯科医師を含む多職種協議のもと、フォーラムや研修会を開催し、誤嚥性肺炎の予防や「生涯、口から食べる」機能を持続する目的で普及啓発を図った。(平成15年度～17年度)当管内では、現在も摂食嚥下対策委員会の活動が続いています。	・糖尿病と歯周病は、相互に関係が深いことから、医科から歯科、歯科から医科への紹介システムや管理システムが必要。 ・歯周病に関連して、喫煙と歯科も、歯科受診から、歯の汚れで喫煙癖がわかり、歯周病の治療にも影響があることから、歯科医から禁煙を薦め、禁煙外来への紹介システムができればと思う。 ・産科と歯科の連携は歯周病予防の観点から必要である。妊婦はホルモンバランスの変化から、妊娠性歯肉炎を起こしやすく、出産後も育児があり、歯科受診しにくいので、この時期にかかりつけ医をみつけ、定期的健診受診の習慣をつける機会となる。	・当県では、健康福祉推進協議会に医療部会、健康づくり部会等医師会、歯科医師会の代表が集う会議があるので、それを手がかりに地域で先行する課題について提案していく。
140	都道府県		糖尿病と歯周病治療の連携体制	特定健診時に歯周病検診に受診勧奨、パンフレットの作成検討中

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答者	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
141	都道府県	当市地域医療対策協議会歯科保健医療部会において、「医科と歯科との連携」について協議中。今年度のテーマは「医科と歯科の地域医療連携の推進」で、先進地(千葉県柏市)から講師を招き研修会を開催したところ。また、今後、市の実態把握(アンケート調査)を実施する予定。		
146	都道府県		生活習慣病患者の口腔清掃、ケア、治療、医療・介護サービスを受けている高齢者の口腔ケア	脳卒中、糖尿病のパスへ歯科を組み込みたい
152	都道府県	難病患者支援事業における医科・歯科連携(ALSなど神経難病患者における口腔衛生の改善と嚥下性肺炎の予防など)	1. 在宅療養患者の歯科治療、口腔ケアの推進を目指す医科・歯科協力体制 2. 地域リハビリ支援(口腔衛生、嚥下機能維持を通じたQOL向上を目指す) 3. 歯科保健を含む総合的なヘルスプロモーション	4疾病・5事業に関連した地域課題の設定(特に糖尿病関連) 地域保健医療連携協議会の部会(医師(会)、歯科医師(会))をメンバーを含む)で対策検討(ネットワーク構築や新規事業立ち上げを目指す)
153	都道府県	・高齢期の口腔機能向上によるQOL向上と肺炎予防を目的として、予防と治療、リハビリの連携体制づくりをモデル実施。(県西部圏域健口ネットワーク事業、平成19・20年度) ・糖尿病予防対策協力医に、8020推進員養成講座を案内し、コメディカルスタッフが参加。 ・世界禁煙デーイベントに医師会・歯科医師会の協賛をいただき、実行委員として参加いただいている。	地域リハビリテーション・介護予防の推進、災害時の医療救護体制整備、健康づくり等。	・圏域において医師会・歯科医師会双方に参加いただく会議は多いので、これを活用。(県西部地域医療連携推進協議会、地域リハビリ推進協議会等) ・西部圏域糖尿病予防対策検討会(年1回開催)にはこれまで西部歯科医師会から参加いただいていないので、今後の参加について検討したい。
155	都道府県	糖尿病と歯周病の連携について医師歯科医師等研修会		連携のためには、保健所長の力が重要であり、保健所の役割としてその調整機能を発揮していくことが必要と思われる。
156	都道府県		健康増進法に基づく歯周疾患健診の充実について歯科保健推進協議会を通して協議していきたい	在宅ケア(維持期リハ)の中で既存のネットワーク会議等を活用しながら連携強化を図っていく
157	都道府県	平成20年度は、糖尿病対策と連携した歯周病対策の推進ということで、糖尿病患者への歯周病の重症化防止のための啓発を医師会、歯科医師会、薬剤師会、各市町と連携して進めるための推進会議を開催している。		
159	都道府県		当管内の糖尿病対策「〇〇地区糖尿病医療連携」における歯科(医師会)との連携	関係機関(者)による情報共有や協議する機会をもつこと

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答順	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手立て
168	都道府県		歯周疾患等口腔疾患を生活習慣病と位置づけて取り組みたいが事業の縦割りが課題である	
169	都道府県	在宅療養している神経難病患者等にたいする訪問歯科診療との連携(連絡調整)及び保健師とDHの同行訪問 療養型病院入院脳卒中患者に対する訪問歯科診療	口腔ケアの必要な者(高齢者、嚥下困難者、誤嚥性肺炎のリスクが高い人)への支援	地域保健医療計画の策定や円滑な推進を図るために設置している地域医療推進協議会の部会等への歯科医師会の参画を検討する
171	都道府県	糖尿病の合併症予防としての歯周病対策を現在、当 ほぼ県所管内では進めているところです。	地域の医師会、歯科医師会当関係機関が連携を行うための具体的な方法について検討する等の取り組みが行われていない。 連携を行う際の歯科医師側の医療の質	医師会、歯科医師会等関係機関に連携を図る必要性等を保健所が周知し、理解を深め実施していく機運が高まるような取り組みを図ることが重要と考えます。
180	都道府県	障害者・難病患者歯科保健医療ネットワーク検討会・研修会	認知症と口腔ケア	介護保険広域連合と協力して口腔ケア対策進めたい
181	都道府県	病院単位では、まだまだ、連携は薄いようです。地域での在宅ケアでは、訪問歯科診療を行う施設が増えています。	県歯科医師会は、口腔ケアへの取り組みに熱心です。あらゆる機会、協議会等で積極的に発言さ、協力も、積極的です。	保健所が協議空き等を通じて、連携をとることが重要と思います。
183	都道府県		生活習慣病予防に歯科保健の実践	私は知りませんが、歯周病と糖尿病の関係や動脈硬化などの原因に歯周病が関係するなどの事実の周知で歯科の重要性を認知してもらうことが大切。 連携と言うより、慢性病の予防のために歯科衛生保健をそれ自身重要として実践する。 医科の方に歯科の大切なことを認知し、患者に啓発して歯科に受診してもらうように働き掛けてもらうのが良いのでは。
184	都道府県		ヘルケア推進事業において、障害者(児)、難病患者、高齢者などに対して、摂食障害の改善や誤嚥性肺炎防止などのため、口腔ケアをしており、当所として歯科との連携はしてきたが、今後は医科との連携を進めていきたいと考えている。	当所が情報提供するなど、地域の医師会や歯科医師会との連携を深める手だてについて検討していきたいと考えている。 保健所が情報提供等により連携を深める手だてを検討したい
185	都道府県	等管内で医師会と歯科医師会が共同で糖尿病クリティカルパスを検討中である	脳卒中患者の口腔ケア、生活習慣病との関係、食育における歯科の役割	情報交換の場を多くする
189	都道府県		糖尿病、脳卒中	

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答者	保健所	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
190	都道府県	1. 保健所管内にある歯科医師会の歯科医療センターで障害者や在宅要介護高齢者を対象にした歯科診療が行われている。 2. 保健所が妊婦に対する歯科保健指導のパンフレットを作成し、歯科医師会および医師会産科医会の協力を得て配布した。	まずは、糖尿病診療や要介護高齢者診療における医科歯科の連携を進める。	糖尿病について、医科歯科の連携事例を重ねるとともに、その効果について検証を行う場を設ける。
191	都道府県	脳卒中協議会、発達障害研修会	糖尿病医療連携協議会	医療連携パスの検証、評価をおこない、その結果により検討する。
192	都道府県	禁煙指導時に口腔ケアの啓発を同時に実施		
193	都道府県		歯周病と全身(糖尿病、冠動脈疾患、メタボ)との関わり	双方の会議や研修会などで歯周病と疾患との関わりをテーマにして、医師間で話し合いや情報交換の場を設ける。
195	都道府県		本県では4疾患5事業の医療機能分け調査に、歯科医療が顕著化するように入っていないなかつたことは問題だと思っています。 最も、私達の認識も十分でなかったことも否めませんし、管内の健康づくりの会議にも歯科医師会代表の方もおられますが、残念ながら医科歯科連携の話題は大きくなりませんでした。 今後、在宅医療が推進される中で早急に取り組むべき課題の一つだと思います。	この調査受けて管内会議で強調したいと考えます！
200	都道府県	難病対策における連携	救急体制	
203	都道府県	平成15年度に、禁煙支援において、歯科医院から禁煙治療を行っている医院への連携を試みました。当時は禁煙治療は自由診療でしたので、医科診療所での実施の有無・紹介の可否等に関するアンケートの実施したり、歯科診療所では紹介をして頂けるかというアンケートを実施しました。また、医科診療所と歯科診療所の先生方に集まって頂く会議でも協力をお願いしました。しかし、当時はまだ禁煙への関心の高い先生はごく一部の先生でしたので、実績は作れませんでした。	禁煙支援、糖尿病予防・治療	地域には、歯科の先生方には、生活習慣病や口腔ケア、禁煙などそれぞれにおいて関心の高い先生方がいらっしゃる中で、その先生方を中心に、医科の専門の先生との連携の仲介役を保健所が出来るのではと思います。

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答順	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
205	都道府県	パスのケース検討会、口腔ケアNST回診、地域の連携大会開催		
207	都道府県	口腔ケアと高齢者の健康管理	身体疾患と口腔疾患の関連から連携を推進する	相互に疾患ごとのネットワーク構築し、日常的な連携を推進する
208	都道府県		生活習慣病対策での連携	保健所や市町村の健康づくり推進協議会の中で連携を進めていく
209	都道府県	上述の摂食・嚥下機能支援事業は、地区医師会・歯科医師会、回復期病院リハビリ専門医、摂食・嚥下専門歯科医、PT、ST、NS、DHなど多くの関係者で協議会を立ち上げ、現状分析、課題整理、方針確認を進めてきた。あわせて、人材育成の一環として、都事業のモデル化による医師・歯科医師のVE検査医(平成20年度から2年間で管内各市ごとに医師・歯科医師から1名ずつ、計12名予定)を養成中である。	都としては、医療計画にそって20年度から脳卒中、21年度から糖尿病に関する地域連携システムを構築することとなっている。 脳卒中に関しては当圏域としては都計画に先行して取り組み、歯科保健とも具体的にリンクさせながら事業化してきたが、糖尿病については、特に歯周病対策を中心に医科・歯科の連携を具体化したいと考えている。	従来から医科・歯科の連携が叫ばれてきたが、なかなか具体化しなかった経緯があった。 当圏域では摂食・嚥下機能支援という具体的な事業を通して、連携が不可欠なものであることをお互いに認識しあいながら、顔の見える協力体制を築いてきた。 摂食・嚥下については、口腔期・咽頭期の連続した機能に関連することから、医科・歯科の連携は必然であり、こうしたテーマの選定は、医科・歯科の連携構築には有効なものと考える。 糖尿病対策における歯周病も有効な連携のテーマとなる。ただし、連携のための事業ではなく、事業のためには連携が不可欠という視点を忘れてはならない。
211	都道府県	妊婦に歯の健診を受けてもらうことを趣旨とし、歯科医師と産科医師の連携会議を開催した。当所オリジナルのパンフレット及びポスター案を作成し、双方から意見をもらい、各市町村、産科、歯科外来に掲示、配布するに至った。	寝たきり高齢者などで、経口摂取をできるだけ続けることにより、中心静脈栄養を受けた群よりもMRSAの検出率が有意に低下したとの報告があったと記憶している。しかしながら、それにかかるコスト、専門家の不在等、課題が大きいと考えている。	連携会議等で、医師会、歯科医師会との連携を仲立ちする機会を設定するなどの対応を考えていきたい。
215	都道府県	在宅医療	在宅医療、介護予防	行政による調整
216	都道府県	連携の上で言う事例はあまり無いが、在宅要介護者で摂食嚥下障害を有する事例・介護保健施設での相談事業等で、雇いあげて入っていたという。ただ、家族や本人が歯科医院の門をくぐるまでには、大きな障壁があり、そこへ行くまでに、訪問などできっちり支えていただけた積極性が地域の歯科医師会に欲しい。歯科衛生士さんの訪問指導のシステムも必要である。	取り敢えずは、摂食・嚥下障害を有している要介護者の支援体制作り。	事例の積み上げと、医療～歯科医師・歯科衛生士～福祉・介護の嚥下障害を有している方への連携支援(障害者も併せて必要と感じている。)

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科との連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答欄	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手立て
217	都道府県	・地域保健関係者等研修会において、歯科保健従事者を対象に、糖尿病専門医師の講話を実施。 ・地域職域連携会議に医師会、歯科医師会からそれぞれ代表が参加しており、歯周病も生活習慣病の一環として捉え総合的な対策を検討している。 ・「チャレンジ事業所事業」に参加した事業所の従業員へ生活習慣病予防の指導を行っており、その中に内科的疾患とともに歯周病も含まれている。	今後の有病率の増加が見込まれることから、糖尿病の診療と歯周病対策の連携が必要と思われる。	まず医科と歯科が連携の必要性について共通認識、目的を持つ必要がある。 対策を進めるには、保健所にある既存の会議、事業等を活用することが考えられる。
219	都道府県			まずは保健所主催の各検討会で、構成メンバーの検討が必要か？
224	都道府県		糖尿病と歯周病の間には、一方が悪くなれば他方にも悪い影響を与えるので、地域住民の健康を守る上からも知識の周知を図る	医科には、糖尿病治療の啓発パンフレットや掲示を作るときに、歯周病の項目を入れてもらう。一方、歯科には歯周病の啓発パンフレットや掲示を作るときに、糖尿病の項目を入れてもらうことを要請する。
225	都道府県	〇〇地域では従前から医科と歯科の連携が随所で図られている。現在作成中の「地域医療連携推進プラン」においても、医科と歯科の連携について連携図等に記載したところである。 地域連携クリティカルパスとしての医療連携については、これから具体的な検討を進める必要があると感じている。		
227	都道府県	ビスフオスフオネート薬剤に関する研修会を医科医療機関、歯科医療機関を対象に実施した。(管内歯科医師会主催、後援：当保健所)	歯周病コントロールにおける歯科疾患の重 要性の啓発	保健事業部会や歯科保健協議会の管内既存会議での協議
229	都道府県		連携パスを進める上で、歯科保健医療の効果の大きいものは積極的に取り入れるべきと考える。 脳卒中、糖尿病の他にもエビデンスのあるものについて進めるべきと思う。	地域連携クリティカルパスの導入の主体は地域の病院等であり、現在のところ保健所がその中心的リーダーとなるには限界があると思うが、医療連携の協議がある折には歯科についての理解を得て参りたい。 今後、エビデンスをもって診療報酬や他の制度で位置づけられれば、歯科についても当然の連携のパートナーとして組み込みができればいいと思う。

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答順	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
230	都道府県	当所主催の介護予防・リハビリテーション推進委員会にばいて、高齢者の口腔、嚥下、摂食機能向上維持について取り組んでいる。 地域在宅医療連携検討会において、歯科医師も入院当初より口腔ケアに参画することや、往診の活用等について協議した。	糖尿病患者の歯周病予防や、寝たきり高齢者の口腔ケアの重要性等について、保健、医療関係者や在宅ケアに関わる関係者が知見を深める手だてが必要。	当所主催の介護予防・リハビリテーション推進委員会や在宅医療連携会議において引き続き検討し、関係者の意識の向上を図る。
231	都道府県	県が県歯科医師会に委託して、「糖尿病と歯周病の関連」に着目した郡市歯科医師会と郡市医師会との連携のモデル事業として、当保健所管内の1歯科医師会(〇〇歯科医師会)が実施しているが、現在、当保健所の関与はない状況である。 歯科医師会の実施内容 1.「糖尿病と歯周病の関連」についての研修会の開催 2. 啓発資料の作成及び患者へのPR(パンフレット作成)	全身の健康と歯の健康については、糖尿病や誤嚥性肺炎と歯周病の関連等、学会における報告も増えているが、医科においてはまだまだ十分に議論されていないので、歯科から医科への情報提供が不足していると考えられる。	医科の関連学会への事例や情報提供などの働きかけにより、連携の機会を作ったり、連携方法を検討する。医師会と歯科医師会の連携には保健所長の力が重要と考える
233	都道府県	NSTがらみでパス様式作成に当たり口腔外科医に相談したと聞いている		
234	都道府県		たばこ対策及び口腔ケア全般への協働での取り組み、介護予防に係る診断とリハビリの実践	お互いの連動する部分を理解し合い、協働で取り組んでいける体制等が必要
236	都道府県		肥満、糖尿病予防のために医科と歯科の連携を求める	保健所が仲介となり、医科と歯科の連携を図る
237	都道府県	障害児(者)に関する歯科関係者を対象とした研修会の開催	医科側から歯科に要求することの明確化が連携を進めるための課題である	三師会(医科、歯科、薬剤師会)の定例の会合を持ち、課題の共有化を図ることによってネットワークの構築を図る
238	都道府県	保健所難病患者在宅ケア推進委員会を開催し、地区医師会・地区歯科医師会の協力を得て、地域主治医紹介システムの構築に取り組んでいる		地域連携クリティカルパスにおいて、医師会と歯科医師会との連携の合意を図ることが必要と思われる。
241	都道府県			共同での事業実施
243	都道府県			歯周疾患と糖尿病の関連などについて、医師、歯科医師に知識を広めることから始めなければならない。 糖尿病については、合併症について内科と眼科の連携はとれていると思われるので、歯科との連携も可能ではないかと考えます。

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科との連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答者	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
245	都道府県		糖尿病対策(管内の糖尿病有病者比が高い)	市町村と連携し、健康づくり大会などの場で、医科と歯科の両科に関する研修会などを開催する
250	都道府県	管内病院糖尿病教室で歯科衛生士が1単位講演している。難病患者(ALS等)の訪問時に歯科衛生士が同行し、口腔ケアに問題がある場合は、歯科医に紹介している。また、カンヌーレ交換時には、歯科衛生士が事前に口腔ケアと開口の保持に当たっている。 歯科医の訪問診療において主治医の了解(指示書)をいただいている。	メタボ対策についても歯科保健を入れていただき医科と歯科の連携による対策が必要だと思います。 口腔ケア、嚥下障害における医科歯科連携。高齢者の感染予防について、とりわけ肺炎予防についての医科歯科連携が必要。	医療計画、健康増進計画、特定保健指導等実施計画の中で位置づけることが大切。 地域・職域連携推進事業等における歯科と医科の連携推進。共通課題の救急する場(連携会議)が必要。
252	都道府県		保健領域におけるモデル事業による統計学的に裏付けされたエビデンスが必要。	歯科領域においてしっかりとエビデンスのある実績を形成していくことが医科との連携の強化につながる。そして、これを踏まえた結果、事業としてのコスト・パフォーマンスを目指すことが可能になる。
255	都道府県	保健所歯周病対策ネットワーク推進会議で「歯周病と糖尿病」に関して地域で推進するため、医師会及び2型糖尿病治療及び健康教育を実施されている病院の医師、歯科医師会・薬剤師会・栄養士会・歯科衛生士会・市町保健センターを構成員とした会議を年2回開催している。	「歯周病と糖尿病」対策については、医科・歯科・薬科の基盤整備を重点的に研修会・教育媒体の配布で充実させる。	①「歯周病と糖尿病」の関係については、2型糖尿病に取り組み病院では、歯周病について教育内容に可能な限り触れたい。病院内の関係者に対する研修会を保健所から出向き21年度も継続実施する。また、保健所は指導用媒体としてパンフレット・ポスター」等を配布する。 ② 歯科医院については、「歯周病と糖尿病」の関連について説明、指導が出来るよう受け入れ側の準備をしていただくための、歯科医師・歯科衛生士のモチベーションを高める勉強会を21年度も継続実施する。 ③新たな連携として、薬局における投薬時に「糖尿病合併症予防」として歯周病管理について、住民へ情報提供していただく。保健所は指導用パンフレット・ポスター等を配布する。
259	都道府県		近年、糖尿病と歯周病には高い関連性があり、両者がお互いに他方を悪化させると終わっています。 疾病の早期発見と重症化を防ぐために医科歯科の連携を今以上に密接にする必要があります	圏域単位、保健所単位で開催される推進会議、連絡会議等において関係者の共通認識を図ること

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答者	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
264	都道府県	摂食嚥下障害事業として協議会を運営し、フォーラムを開催した(継続実施)	全身と歯科疾患との関係について両科の共通認識をもつこと。 感染症(歯科における)対策の推進→インフルエンザ対策、施設における口腔ケアと感染症対策、エイズ、B、C型肝炎等様々な予防対策の推進が必要	医科歯科の医師教育の統一
265	都道府県			手だてはないが、医師の中にまだまだ歯科医師に「任せられない」という考えを持つ人が多いようにある。これが一番の課題と考える。
267	都道府県	連携パスに準じたもので糖尿病患者に交付される糖尿病手帳をパスとして医科歯科連携に用いている糖尿病対策推進の研修(歯科医師会主催)に医科も生徒研修として参加を促す。 口腔ケアに関する研修(歯科医師会主催)に医科も生涯研修として参加を促す。 口腔ケアハンドブック作成にあたり、医師会長より挨拶文をもらう。 糖尿病病検討会では歯科医師会も委員となり、パスを検討	事例を通しての連携の積み重ねと広がり	
268	都道府県	関係者kむけ研修会で「歯の健康と糖尿病」を取り上げ、歯科医師会の講師で実施。糖尿病予防対策検討会に歯科医師会からも参画。 糖尿病手帳を作成しその活用について歯科医師会の協力を得る予定。	脳卒中連携パスについて医師会から歯科を入れてほしいという希望が出ている。 歯科医師会の意向がそろえば来年度運用開始してからの課題である。	各種検討会への歯科医師会の参画
271	都道府県	医師会と歯科医師会がモデル事業	高齢者対策について検討したい	
274	都道府県	脳卒中の回復期から維持期にリハビリをつなげる手段として独自の生活療養ノートを作成使用しているが口腔ケアの内容も入れている		
276	都道府県	管内にある県立病院においてベッドサイドでの口腔ケアけんしゅうを看護師を対象に実施している。	地域連携パスに「歯科」を組み込むこと	地域連携パス研究会や管内地域職域連携会議等において提案し協議していきたい
277	都道府県			県型保健所で、人員が少ない中法的業務(医務、衛生統計、感染症、食品衛生、生活衛生)精一杯です。

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答順	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
6	市区	平成18～20年、区の補助事業として、歯科医師会が誤嚥性肺炎予防と栄養改善等を目指し、特養入所中の高齢者を対象に口腔機能のチェックを行い必要なケアを行った。 今後は在宅高齢者や医療機関その他の施設入所者にも拡大し実施する見込み。	高齢者の医療連携パスに口腔ケアを必ず入れること	歯科医師会への委託事業を通じて連携を図りたい、
39	市区	災害医療、糖尿病医療連携、脳卒中医療連携等さまざまなに区の事業に参画していただき、医科、歯科は診療連携、病診連携行われ、関係は良好です。	咀嚼・嚥下困難者に対する医科歯科福祉保健連携を進めたい。	普段の顔の見える関係が大切である
49	市区	口腔ケアで歯科医師会と病院が連携している		
57	市区	口腔ケアと高齢者について研修会を共同実施		パスのよる連携も検討したい。
60	市区	医師会の姿勢が歯科を取り込めていない。歯科医療の大切さが、医科に理解されていない。 訪問診療の場面で医師会が全く考慮しようとしなかった。(数年前の他地域での経験だが)	認知症と口腔機能の大規模調査	厚労省が連携システムに対して医療保険などの予算を付けるようにする。 国として報告システムにし、予算を付ける。
74	市区		介護予防、生活習慣病の予防の視点で歯科との連携は不可欠と思う。 当市保健所は健康づくりの業務がないので、本庁所管課に提案していきたい。	歯科の人たちだけではなく、医科の分野の人たちへの啓発・呼びかけが必須である
75	市区		全身疾患と歯周病の関連に関する啓発の推進	協議をする場の設定
77	市区		介護予防事業に参加してもらいたい	口腔ケアの保健点数が低く、開業の先生が取り組みにくい

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科との連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答欄	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
87	市区	H19～20年度に「在宅要介護高齢者の口腔ケア、摂食・嚥下機能支援の推進」をテーマに検討している。 会議の委員として医師会、歯科医師会代表が入ることとで、医師会を通じ医療機関へのアンケート調査を実施し、対応可能医療機関を把握。 また、歯科医師会の訪問事業を医師会会員に周知できた。 会議において、摂食・嚥下機能障害のある在宅高齢者への治療、リハビリで耳鼻科と歯科の連携の事例報告があった。 市民病院への入退院患者に対して、地域での口腔ケアと連携が取れるよう、歯科医師会 病院の連絡票を作成し、市民病院に協力を依頼した。 会議での検討からこの問題は医療、介護のネットワークづくりだけでは解決が難しく、関係者、一般市民への普及啓発活動が必要であり、そのためのリーフレットを作成中である。 H21年度も取り組みの予定。		
89	市区	産婦人科のマタニティー教室での歯科医師・歯科衛生士による講和	糖尿病等歯周疾患と関連のある領域	脳卒中医療連携検討会をはじめ各種協議会には既に地元の歯科医師会が参加しています。今後もそれら会議において連携の充実に努めます。
106	市区		肺炎予防、8020運動推進	
121	市区	患者さん（紹介状）をとおして治療の内容や取り手（紹介状）ではなく、医科・歯科の担当医が直接話をし、検査項目・治療方針や順序を検討することにより、患者さんの負担がへり、効果的な治療が行えた。	一人の患者さんの診療状況や検査状況が、患者さんをふくめ、医科・歯科がお互いに情報共有できる体制を整える	歯科からは、口腔内の状況から、全身的な疾患のリスクを患者さんより先に見つけ、医科に紹介することや、医科からは、全身疾患の持つリスクに合わせ、予防のために歯科へ紹介するといった、現場での実績の積み重ねが、連携を深めるのではないかと考える。

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答者	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
124	市区	1). 地元歯科医師会が、地域支援病院と連携できるように提携 2). 急性期および回復期病院をもつ病院の医師を講師に摂食嚥下障害者の口腔ケアについて研修会(市の「障害者歯科保健推進事業」の委託事業として市歯科医師会が実施)を実施したことをきっかけに市歯科医師会執行部の歯科医師が病院での口腔ケアを見学。 3). 回復期病院の医師が中心となり、摂食嚥下に関する職種で「県口のリハビリテーション研究会」を立ち上げ、年間数回の研修会や講演会などを継続して実施している。(県下レベルでの実施) 4). 口唇口蓋裂の療育支援において、形成外科と歯科口腔外科・矯正歯科・保健所(歯科)・言語聴覚士などで、療育相談会や口蓋裂の言語治療・摂食指導の実施。(県療育福祉センター主催) 5). 市医師会園医部会・保健所健康づくり課・保育課主催の乳幼児保健カンファレンスに歯科医師会理事も出席し、乳幼児保健の課題についてのディスカッションに参加。(年に2, 3回開催)	現在は市医師会理事と市歯科医師会理事、県歯科医師会理事と県医師会理事のレベルでの連携が主で、地域での医科・歯科の連携までにはいたっていないケースが多い。 市では地域リハビリテーションを推進しているために、市保健所内に地域リハビリテーション広域支援センターを置き、活動推進方法などを検討する地域リハ支援ネットワーク会議の中で、医療・福祉の関係機関も参加してもらっている。その中で、医科・歯科の連携が進んでいけばと考える。	医師会、歯科医師会の組織間の連携のみに終わるのではなく、積極的に地域活動をしている医師・歯科医師が自由にディスカッションできるような連携を進めていけるように、地域リハネットワーク会議などで現場の声が反映できる取り組みができればと考える。
128	市区		摂食嚥下障害、HIV感染者への歯科治療、有病者(特に糖尿病)の歯科治療	地域連携クリティカルパスの中に歯科を位置づける、医師会と歯科医師会が協同行う事業(講演会等)を開催し、相互理解を深める。
142	市区	・歯科保健の推進協議会(8020推進協議会)において、医科の歯周疾患に対する理解の必要性について話題となったことから、医師会が歯科医師を招き、歯周疾患についての講演会を開催した	・「歯周疾患検診」の受診率向上のため、医科に受診する患者(特に糖尿病患者)に、医科からのアプローチを行うこと。	・医科が、様々な事業を展開する中で、歯科の視点を常にかけておくこと。 ・歯科が、機会あるごとに、歯科の情報を医科に発信していくこと。
143	市区	行政の係わらない中で、既に三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)の連携体制は整いつつある。このことが評価され、東京都の在宅医療ネットワーク事業における三モデル事業実施地域のひとつに指定され、今後検討が進められることになっている。(東京都と地区医師会との直の関係でのモデル事業であり、区は関係していない)		

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科との連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答順	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
144	市区		在宅ねたきり者(高齢者、障がい者)の口腔管理について、医科と歯科での情報の共有や紹介システムの構築など。	連絡会など情報交換の場を持ち、キーパーソンを増やす。 また、各自が専門性を追求することも重要であり、そのための対価も必要。
165	市区		脳卒中中の地域連携パスにおいて歯科は重要と考えています	
196	市区	市の事業として行っていた、在宅ねたきり者等の訪問診療の際、主治医よりの意見書等をもらって実施していたケースがある。	口腔機能の維持を図るためには、急性期をすぎたできるだけ早い時期から、歯科との連携が必要となるので、急性期病棟の医師・看護師などへの口腔機能の必要性についての啓発を進めていく。	平成20年度より病院等に対し、在宅に移行する患者のうち、口腔衛生指導が必要な方の情報提供を受け、すみやかに訪問口腔衛生指導を実施するとともに、かかりつけの歯科医師へ繋げていく事業の展開をすすめている。
199	市区	〇〇区立歯科保健医療センターの運営に関して地域の病院の協力を得たり、入院患者への訪問歯科診療などを実施する体制がとれている	今後、在宅医療などの分野や介護保険、介護予防分野などでの医療機関や事業者等との連携構築を図る必要がある。	区立歯科保健センターを中心とした、医科歯科連携体制を構築するとともに、在宅医療推進協議会などを通じて連携体制を構築することも目指す。
201	市区			県では、「地域連携パス定着支援事業」として、二次医療圏における疾患別ネットワーク形成に資する地域連携パスの活用・促進を推進しているが、この一環として、当圏域においては、19～20年度に脳卒中を対象疾患とする連携パスの運用を検討・開始したばかりであることから、今後、医科・歯科の連携へと進めていくためには、現状の連携パスの中で、事例を積み重ね検討していくことが必要であると考える。
210	市区		認知症における地域在宅ネットワーク事業(保健所ではなく高齢福祉課が所管)	
242	市区		地域の中での摂食・嚥下機能の支援	
244	市区	寝たきり者訪問歯科診療事業	施設ならびに在宅において誤嚥性肺炎の予防のための口腔ケアのスムーズな導入を図りたい	行政ならびに三師会との連絡会の開催
254	市区		保健所の健康づくり事業、特に特定保健指導等の際に医師からも歯周病の関わりについて啓発や指導を実施する	②のとおり、健康づくり事業を通しての連携の推進。病院立ち入りの際の病院歯科との情報交換や情報の共有。
260	市区		摂食・嚥下リハビリテーション	21年度在宅療養体制の整備に取り組むためその一環として医師会、歯科医師会の連携の場を設定する

地域住民を中心とした医療体制構築を目的とした医科と歯科の連携推進のためのアンケート自由記載欄

回答順	保健所型	これまで医科と歯科との連携で経験した事例	これから医科と歯科との連携を進めたい課題	これから医科と歯科との連携を進めるための手だて
261	市区		誤嚥性肺炎予防の取り組み 歯周病と動脈疾患(心疾患等) 歯周病と早期低体重児出産	地域医師会及び地域歯科医師会との合同の研修会を開催し、全身疾患と口腔疾患の関連性について共通認識を図る。 全身疾患と口腔疾患の関連性が高い疾患について双方の取り組みについて検討する。
269	市区	健康づくりなど地域の「食育」に役立っています	地域福祉計画の実施	
275	市区	在宅寝たきり高齢者への訪問歯科診療の際、患者の内科主治医と連携しながら治療実施の可否や服用薬物の情報を得て、安全な歯科治療を行った。	脳卒中等で病院からの退院後、在宅での口腔ケアがスムーズに取り組まれるよう医療連携が必要と考える。 脳血管疾患等の在宅療養患者について、口腔ケア・摂食嚥下指導を歯科が分担できる体制の整備。 歯科医師の認知症患者への対応能力強化による、在宅認知症医療チームの結成。	医科、歯科の関係者が摂食嚥下リハビリテーションを含め、口腔ケアに関する共通理解を持つための研修会等が必要と考える。 身近な地域における医科・歯科診療所及び病院、訪問看護ステーション、居宅介護支援診療所、地域包括支援センター等の保健医療福祉関係者の連携会議の立ち上げ。(当市では、平成20年度に全市レベルの連携会議を立ち上げ検討を開始した。 21年度以降、行政区レベルにおける連携会議を順次立ち上げていきたいと考えている) 地域中核病院の「口腔ケアセンター」等と地域の医科・歯科との連携による、在宅療養環境の向上への取り組みの強化。

平成 20 年度 地域保健総合推進事業
歯科・医科連携による歯周疾患アプローチに関する研究
報告書

発行日 平成 21 年 3 月

編集・発行 分担事業者 瀬戸 昌子（滋賀県高島保健所）

〒 520-1621 滋賀県高島市今津 4 4 8 - 4 5

TEL 0 7 4 0 - 2 2 - 2 5 0 5

FAX 0 7 4 0 - 2 2 - 5 6 9 3